

## 平成 17 年度試験検査精度管理実施結果

### 水質化学科

「理化学試験精度管理」事業は、昭和 62 年度から継続して実施しており、5 保健所及び衛生環境研究所の 6 機関で実施した。

本事業の目的は、保健所及び衛生環境研究所で実施している試験検査の信頼性を確保するとともに、分析

及び検査技術の向上を図ることにある。平成 18 年 1 月下旬に衛生環境研究所が 2 種類の模擬試料を調製して各機関に配付し、それぞれ指示した方法により分析を実施した。

分析項目は、全有機炭素 (TOC) 1 項目であるが濃度が異なっている。

分析方法及び分析結果について検討したところ、各機関とも良好な結果であった。

### 平成 17 年度 理化学試験精度管理実施結果

機 関 名	分 析 結 果	
	試 料 水 (TOC)	
	N o 1	N o 2
A	825	4,175
B	821	4,209
C	855	4,175
D	880	4,274
E	876	4,274
F	827	4,212
平 均 値	847	4,220
標 準 偏 差	26.1	49.1
変 動 係 数 (%)	3.1	1.2

単位：試料水は  $\mu\text{g}/\text{l}$

## 平成 17 年度松くい虫防除薬剤空中散布に伴う影響調査について（県行政検査）

### 理化学試験室

平成 17 年度における松くい虫防除薬剤空中散布事業は、薬剤としてフェニトロチオン（以下 ME P）を使用し、前期（5 月 31 日～6 月 1 日）、後期（6 月 21 日）の 2 回実施された。

そこで当所は、環境調査として伊予市及び久万高原町における水源となる河川水、伊予市における大気中の浮遊量と落下量について分析を担当した。

薬剤の捕集法として、大気中の薬剤浮遊量は、固体吸収体としてグリセリンをコーティングしたフロリジルを、落下量は、グリセリンをコーティングした風乾ろ紙を使用した。

調査結果は、次のとおりであった。

#### 1 河川水の薬剤濃度

伊予市（3 地点）及び久万高原町（3 地点）の 6 地点から前後期の散布前後における河川水 24 検体を分析し、

その結果、前期の散布後 1 検体及び後期の散布後 1 検体から使用薬剤 ME P を検出した。

（検出限界： $0.20 \mu\text{g}/\text{l}$ ）

#### 2 大気中の浮遊量

伊予市の 1 地点において前期は散布前日、当日、3 日後、7 日後の 4 回、後期は散布前日、当日、2 日後、7 日後の 4 回散布薬剤を捕集し、経時変化について調査した 14 検体の分析結果は、すべての検体から使用薬剤 ME P は検出されなかった。

（検出限界：絶対量  $0.1 \mu\text{g}$ ）

#### 3 落下量

伊予市の 3 地点において前期、後期の散布前日、当日、2 日後、7 日後の 4 回散布薬剤を捕集し、経時変化について調査した 24 検体の分析結果は、すべての検体から使用薬剤 ME P は検出されなかった。

（検出限界：総落下量  $2.0 \mu\text{g}/\text{m}^2$ ）